

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-282946

(P2007-282946A)

(43) 公開日 平成19年11月1日(2007.11.1)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 4 7 B 57/34 (2006.01)	A 4 7 B 57/34	3 B 1 1 8
A 4 7 F 5/00 (2006.01)	A 4 7 F 5/00	
A 4 7 B 57/42 (2006.01)	A 4 7 B 57/42	B
A 4 7 B 57/48 (2006.01)	A 4 7 B 57/48	A
A 4 7 B 96/06 (2006.01)	A 4 7 B 96/06	B
審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 11 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号	特願2006-115280 (P2006-115280)	(71) 出願人	502115589 株式会社伊藤伊
(22) 出願日	平成18年4月19日 (2006. 4. 19)	(74) 代理人	100108486 弁理士 須磨 光夫
		(72) 発明者	伊藤 嘉英 東京都文京区湯島2丁目4番10号 アイ ビービル4階 株式会社伊藤伊新社内
		Fターム(参考)	3B118 AA14 BB04 BB13 CA10 CA12 DA16 DA29

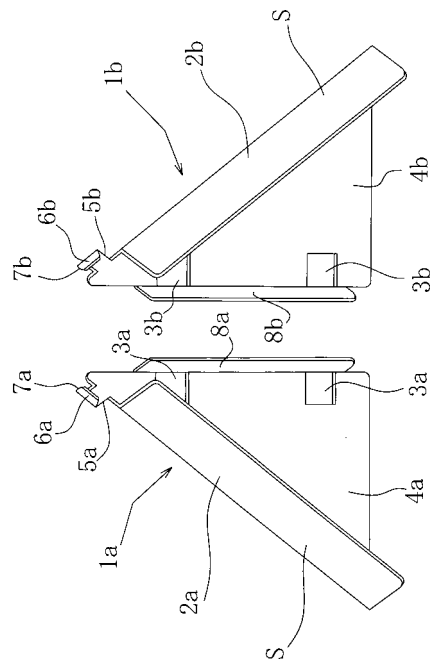
(54) 【発明の名称】 展示用棚板具及びそれを用いる展示用棚

(57) 【要約】

【課題】 簡単な操作で水平な棚板を手前下がり傾斜させて展示用の棚とすることを可能にする展示用棚板具と、その展示用棚板具を用いる展示用棚を提供することを課題とする。

【解決手段】 棚板と当接する棚板当接面を備えた棚板受け部と、その棚板受け部を、棚板当接面が水平から傾斜した状態で、棚の側板に対して係止する係止部と、その先端が棚板当接面が存在する平面よりも棚板側に突出する棚板係合部材とを備え、その棚板係合部材が、棚板当接面の傾斜方向側方に突出する係合片を有している展示用棚板具と、このような展示用棚板具を、側板の右側用と左側用の左右一対で用いる展示用棚を提供することによって、上記課題を解決する。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

棚板と当接する棚板当接面を備えた棚板受け部と、その棚板受け部を、棚板当接面が水平から傾斜した状態で、棚の側板に対して係止する係止部と、その先端が棚板当接面が存在する平面よりも棚板側に突出する棚板係合部材とを備え、その棚板係合部材が、棚板当接面の傾斜方向側方に突出する係合片を有している展示用棚板具。

【請求項 2】

係合片が、棚板当接面の傾斜方向上方に突出する突起を有している請求項 1 記載の展示用棚板具。

【請求項 3】

係止部が、棚板受け部を、棚板当接面が水平から傾斜した状態で、棚の右側の側板に係止するものである請求項 1 又は 2 記載の展示用棚板具と、係止部が、棚板受け部を、棚板当接面が水平から傾斜した状態で、棚の左側の側板に係止するものである請求項 1 又は 2 記載の展示用棚板具とを、少なくとも 1 対備えている展示用棚。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、通常の棚を展示用の棚に簡単に変更することを可能にする展示用棚板具、及びこの展示用棚板具を用いる展示用棚に関する。

【背景技術】**【0002】**

図書館等において、新着の図書や雑誌等、或いは、特に注目を引きたい図書や雑誌等を、手前下がりの棚板上に平置きにして展示することが行われている。しかしながら、このような展示用の棚は、展示すべき図書雑誌等の数の増減に機敏に対応することができず、往々にして、その一部が空のまま残されていたり、逆にスペースが足りずに、展示すべき図書雑誌等の一部が展示されないままに残されていたりするものが実状である。したがって、もしも、通常の書架等における水平に架設されている棚板の一部又は全部を、随時手前下がりにして展示用の棚に変更したり、逆に不要の場合には、手前下がりになっている展示用の棚を水平に戻して、通常の書架として使用したりすることができれば、極めて便利である。

【0003】

一方、従来から、本来水平な棚板を随時傾斜させることを可能にする書架等は、例えば、特許文献 1 や、本出願人による特許文献 2 において提案されている。しかしながら、これら特許文献 1 及び特許文献 2 における書架等は、棚板の下面に設けられている係合穴の大きさにゆとりがあることを利用して、棚板を適宜傾斜させて側板間に架設するものであるので、棚板を傾斜させることができる角度には限度があり、展示用の棚とするには不十分である。

【特許文献 1】特開平 8 - 1 9 1 7 2 4 号公報

【特許文献 2】特開 2 0 0 5 - 7 1 3 6 号公報

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

本発明は、上記従来技術の不都合を解消するために為されたもので、随時、簡単な操作で水平な棚板を手前下がりに傾斜させて展示用の棚とすることを可能にする展示用棚板具と、その展示用棚板具を用いる展示用棚を提供することを課題とするものである。

【課題を解決するための手段】**【0005】**

本発明は、棚板と当接する棚板当接面を備えた棚板受け部と、その棚板受け部を、棚板当接面が水平から傾斜した状態で、棚の側板に対して係止する係止部と、その先端が棚板当接面が存在する平面よりも棚板側に突出する棚板係合部材とを備え、その棚板係合部材

10

20

30

40

50

が、棚板当接面の傾斜方向側方に突出する係合片を有している展示用棚板具を提供することによって、上記の課題を解決するものである。また、本発明は、上記のような展示用棚板具を、側板の右側用と左側用の左右一対で用いる展示用棚を提供することによって、上記の課題を解決するものである。

【0006】

本発明の展示用棚板具は、側板の右側用と左側用の左右一対で用い、それぞれの係止部によって棚の左右側板に係止することによって、左右側板近傍に、手前下がりに傾斜した棚板当接面を形成することができる。また、その左右の展示用棚板具のそれぞれが棚板係合部材を備えているので、棚板を左右の棚板当接面に当接させて、棚板に設けられている係合穴と棚板係合部材とを係合させることによって、棚板を左右側板間に手前下がりに架設することが可能である。特に、棚板係合部材には、棚板当接面の傾斜方向側方に突出する係合片が設けられているので、棚板係合部材は棚板の係合穴と十分に係合し、左右それぞれ1箇所だけの係合であっても、棚板を傾斜させた状態で安定に支持することが可能である。係合片には、さらに、棚板当接面の傾斜方向上方に突出する突起が設けられているのが好ましく、突起が存在する場合には、その突起が棚板に設けられている係合穴の内部と良く係合し、棚板をより安定して支持することが可能となる。棚板を本発明の展示用棚板具から取り外すには、棚板を若干持ち上げて棚板当接面に沿って上方に移動させ、棚板係合部材との係合を解けば良い。

10

【0007】

なお、本発明の展示用棚が展示する対象物は、単行本や雑誌等を含めた書籍類は勿論のこと、CD、DVD、ビデオテープ、MD、MO、その他の情報記録媒体ないしはそれらのケース、商品、箱、書類、書類ケースなど、棚上に収納ないしは陳列することができる全てのものを含み、したがって、本明細書でいう棚とは、書棚、書架は勿論、その他の陳列棚、収納棚、整理棚などを含むものである。

20

【発明の効果】

【0008】

本発明の展示用棚板具は、その係止部を用いて棚の左右の側板に取り付けて、その棚板受け部の棚板当接面上に棚板を載せて、棚板に設けられている係合穴と展示用棚板具の棚板係合部材とを係合させるという簡単な操作で、展示用の棚を形成することができる。しかも、棚板は、棚板の左右底部にそれぞれ2個ずつ設けられている係合穴のうち、左右それぞれ1箇所の係合穴で棚板係合部材と係合するだけであるので、左右それぞれの側における2個の係合穴間の距離の長短に関わらず、自在に本発明の展示用棚板具の棚板係合部材と係合させることができ、大きな傾斜角度で展示用棚として用いることができるという利点がある。このため、本発明の展示用棚板具を用いる展示用棚においては、奥行きが長めの棚板を別途用意して展示用の棚板として使用することもできれば、水平に架設されていた通常の棚板をそのまま大きな角度で傾斜させる展示用の棚板として使用することもできるので非常に便利である。また、本発明の展示用棚板具は、棚板係合部材に係合片や突起が設けられているので、棚板との係合が左右それぞれ1箇所であっても、棚板を傾斜させた状態で安定に支持することができるという優れた利点がある。本発明の展示用棚板具を用いる展示用棚は、展示すべき対象物の数の増減に合わせて、随時展示用の棚板の数を増やしたり、展示用の棚板をもとの水平状態に戻したりすることができるので、極めて便利である。

30

40

【発明を実施するための最良の形態】

【0009】

以下、図面を用いて本発明を詳細に説明するが、本発明が図示のものに限られないことは勿論である。

【0010】

図1は、本発明の展示用棚板具の一例を示す斜視図であり、1a、1bは、それぞれ、棚の左側側板用の展示用棚板具、及び右側側板用の展示用棚板具である。展示用棚板具1a、1bにおいて、2a、2bは棚板受け部であり、そのそれぞれに、その上に図示しな

50

い棚板が載せられる棚板当接面 S、S を備えている。3 a、3 a、及び 3 b、3 b は、それぞれ左右の展示用棚板具 1 a、1 b の本体 4 a、4 b の所定位置に、上下に間隔をあけて設けられた 2 個の係止穴である。この係止穴 3 a、3 a、若しくは 3 b、3 b に、図示しない係止具の一方端を係合させ、その係止具の他方端を棚側板の係止穴に係合させることによって、棚板当接面 S、S が図示のように水平から傾斜した状態で、展示用棚板具 1 a、1 b を、それぞれ左右の棚板側板に取り付けることができる。したがって、図示の例においては、直線上に間隔をあけて上下に設けられた 2 個の係止穴 3 a、3 a、又は 3 b、3 b が係止部を構成していることになる。

【0011】

通常、本発明の展示用棚板具 1 a、1 b は、2 個の係止穴 3 a、3 a、及び 3 b、3 b が垂直方向に並んだ状態で棚の側板に取り付けられるので、棚板当接面 S、S の水平からの傾斜角度は、直線上に間隔をあけて上下に設けられた 2 個の係止穴 3 a、3 a、及び 3 b、3 b に対する棚板当接面 S、S の角度を変えることによって自由に設定することができる。なお、図示の例では、係止穴 3 a、3 a、及び 3 b、3 b は、それぞれ 2 個ずつ設けられているけれども、係止穴 3 a、3 b の数は、1 つの展示用棚板具当たり、2 個に限られない。ただし、1 個では展示用棚板具 1 a、1 b を棚の側板に安定的に取り付けるには不十分であり、3 個以上設けても展示用棚板具 1 a、1 b を側板に安定的に取り付ける効果にさほどの改善は見られないので、通常は 2 個設けるのが良い。また、係止穴 3 a、3 a、3 b、3 b の形状も、図示の例においては略正方形であるけれども、略正方形に限られるものではない。後述する係止具の一方端と係合できる形状であれば良く、長方形、円形、半円形、逆半円形、逆三角形等、適宜の形状とすることができる。

【0012】

5 a、5 b は、その先端が棚板当接面 S、S が存在する平面よりも棚板側、すなわち図示の例では棚板当接面 S、S に対して垂直上方方向に突出する棚板係合部材である。棚板係合部材 5 a、5 b には、棚板当接面 S、S の傾斜方向側方、すなわち棚板当接面 S、S と平行で、棚板当接面 S、S の傾斜方向と直交する方向に突出する係合片 6 a、6 b が設けられており、その係合片 6 a、6 b には、棚板当接面 S、S の傾斜方向上方に突出する突起 7 a、7 b が設けられている。8 a、8 b は折り返し部であり、係止穴 3 a、3 a、3 b、3 b の一辺を形成している。係止穴 3 a、3 a、3 b、3 b が、本体 4 a、4 b のもっと内側に形成され、本体 4 a、4 b だけで係止穴 3 a、3 a、3 b、3 b の四辺を形成することができる場合には、折り返し部 8 a、8 b は設けなくても良い。

【0013】

図 2 は、図 1 に示した展示用棚板具 1 a、1 b の展開図であり、図 1 におけると同じ部材には同じ符号を付してある。本発明の展示用棚板具 1 a、1 b は、例えば、図 2 に示すような一枚の板状部材を、破線 x に示す位置で紙面に対して垂直上方に向かって折り曲げることによって得ることができる。本発明の展示用棚板具 1 a、1 b を構成する材料には、所期の強度があり、棚板を棚側板に対して安定的に取り付け、支持することができる限り特に制限はなく、鋼、鉄、銅、アルミニウム、真鍮等の金属材料やプラスチック材料などを用いて構成すれば良い。

【0014】

図 3 は、本発明の展示用棚板具 1 b を棚の右側の側板 9 b に取り付けた状態を示す図である。図 3 に示すとおり、側板 9 b には、通常、前後 2 箇所に係止柱 10 b、10 b が取り付けられており、係止柱 10 b、10 b のそれぞれには、所定の間隔をあけて複数の係止穴 11、11、11・・・が設けられている。これらの係止穴 11、11、11・・・は、通常、棚を架設するために使用されるものである。12、12 は係止具であり、その一方端が展示用棚板具 1 b の係止穴 3 b、3 b に係合しているとともに、図 3 では見えない他方端が、側板 9 b の係止柱 10 b に設けられた係止穴 11、11 と係合している。

【0015】

図 4 は、図 3 の A - A' 断面図である。ただし、分かりやすくするために、係止具 12、12 にはハッチングは施していない。図 5 は、係止具 12 の斜視図である。図 4、図 5

10

20

30

40

50

に示すとおり、係止具 1 2 は、断面 N 字状で、その幅狭の一方端 1 2 a を、係止柱 1 0 に設けられた係止穴 1 1 に係合させ、係止穴 1 1 の奥に存在する空洞部 1 3 内に進入させるとともに、その幅広の他方端 1 2 b を、展示用棚板具 1 b の係止穴 3 b に係合させることによって、展示用棚板具 1 b を側板 9 b に対して取り付けることができるものである。したがって、上下 2 個の係止穴 3 b、3 b の間隔は、係止柱 1 0 b に設けられている係止穴 1 1、1 1・・・のピッチと一致させる必要がある。

【0016】

なお、展示用棚板具 1 b を側板 9 b に取り付ける機構は上記のものに限られない。例えば、図 6 に示すように、展示用棚板具 1 b の本体 4 b に係止具 1 4、1 4 を直接取り付け、その係止具 1 4、1 4 の先端を、係止柱 1 0 に設けられた係止穴 1 1 に係合させて係止穴 1 1 の奥に存在する空洞部 1 3 内に進入させることによって展示用棚板具 1 b を側板 9 b に取り付けるようにしても良い。この場合には、係止穴 3 b、3 b は存在せず、展示用棚板具 1 b の本体 4 b に取り付けられた係止具 1 4、1 4 が係止部を構成することになる。係止具 1 4、1 4 を本体 4 b に取り付ける手段に特に制限はなく、溶接や接着などの手段を用いて取り付けても良いし、ボルトナットなどの汎用の結合手段を用いて取り付けても良い。

10

【0017】

さらには、図示はしないけれども、側板 9 b に棚板係止用のダボが埋設されている場合には、展示用棚板具 1 b に、そのダボと嵌合するダボ穴を設けて、そのダボ穴を係止部としても良いし、側板 9 b に雌ねじが埋設されている場合には、その雌ねじに螺合する雄ねじによって、展示用棚板具 1 b を側板 9 b に取り付けるようにしても良い。要は、通常の棚板を水平に架設する棚としての機能を損なわないで、展示用棚板具 1 b を側板 9 b に取り付けることができれば良い。ただし、取り付け、取り外しが簡単で、かつ、展示用棚板具 1 b を安定して側板 9 b に取り付けるという観点からは、図 3 ~ 図 5 に示すように、展示用棚板具 1 b の本体 4 b に形成された係止穴 3 b、3 b を係止部とし、係止具 1 2、1 2 を用いて側板 9 b に取り付ける方法が好ましい。

20

【0018】

図 7 は、左右の側板 9 a、9 b に、本発明の展示用棚板具 1 a、1 b を取り付けた後、その上に、棚板を載置する様子を示した図である。図 7 に示す例において、1 5 は通常木製の棚板であり、棚板 1 5 の左右端には金具 1 6 a、1 6 b が取り付けられている。金具 1 6 a、1 6 b には、棚板 1 5 の前後方向に 2 個ずつ係合穴 1 7 a、1 7 a、及び 1 7 b、1 7 b が設けられており、これら係合穴 1 7 a、1 7 a、及び 1 7 b、1 7 b の内部には、木製の棚板 1 5 の一部を切削除去して形成された空洞部が存在している。これら係合穴 1 7 a、1 7 a、及び 1 7 b、1 7 b は、通常、側板 9 a、9 b の適宜位置に取り付けられる係止具と係合して棚板 1 5 を側板 9 a、9 b 間に架設するために使用されるものである。1 8 は、棚板 1 5 の背板であり、棚板 1 5 は、通常、この背板 1 8 の部分を後方に配置した状態で側板 9 a、9 b 間に架設されるものであるけれども、展示用の棚板として使用する場合には、その前後を逆にして、背板 1 8 の部分が前方にくる状態で、側板 9 a、9 b 間に架設するのが望ましい。このようにすることによって、背板 1 8 を展示用棚板の展示物受けとして利用することができる。

30

40

【0019】

棚板 1 5 を、本発明の展示用棚板具 1 a、1 b 上に載置するには、上述したとおり、背板 1 8 の部分が手前にくる状態で、棚板 1 5 を左右の展示用棚板具 1 a、1 b の棚板当接面 S、S 上に載置するとともに、棚板 1 5 の後方側、すなわち奥側の左右の係合穴 1 7 a、1 7 b を、図中実線矢印で示すように、展示用棚板具 1 a、1 b の棚板係合部材 5 a、5 b と係合させれば良い。棚板係合部材 5 a、5 b には、棚板当接面 S、S の傾斜方向側方、すなわち棚板当接面 S、S と平行で、棚板当接面 S、S の傾斜方向と直交する方向に突出する係合片 6 a、6 b が設けられているので、この係合片 6 a、6 b が、棚板 1 5 の係合穴 1 7 a、1 7 b と良く係合し、棚板 1 5 を、前方に傾斜した状態で、左右の展示用棚板具 1 a、1 b 上に安定して係止、保持することができる。特に、係合片 6 a、6 b に

50

は、棚板当接面 S、S の傾斜方向上方に突出する突起 7 a、7 b が設けられているので、棚板 1 5 が、自重若しくはその上に載置された展示物の重量によって、傾斜している棚板当接面 S、S の傾斜方向下方に引かれる場合には、突起 7 a、7 b が係合穴 1 7 a、1 7 b の内部に存在する空洞部と良く係合し、棚板 1 5 の係止、保持はより安定したものとなる。

【0020】

図 8 は、本発明の展示用棚板具 1 a、1 b 上に棚板 1 5 を傾斜して載置する様子をより分かりやすく説明するために、展示用棚板具 1 a と棚板 1 5 だけを取り出して側面から描いた図である。図 8 において 1 9、1 9 は、棚板 1 5 の係合穴 1 7 a、1 7 a の内部に存在する空洞部である。図 8 に示すとおり、棚板 1 5 の奥側に存在する係合穴 1 7 a を図中実線矢印で示すように棚板係合部材 5 a と係合させつつ、棚板 1 5 を棚板当接面 S 上に載置することにより、棚板 1 5 の係合穴 1 7 a と展示用棚板具 1 a の棚板係合部材 5 a とは良く係合し、棚板 1 5 を前方に傾斜した状態で安定に係止、保持することができる。2 0 は、例えば書籍などの展示対象物であり、棚板 1 5 上に載置すると、ちょうど棚板 1 5 の背板 1 8 が受けとなり、棚板 1 5 上に傾斜した状態で載置され、展示されることとなる。

10

【0021】

このように本発明の展示用棚板具 1 a、1 b においては、棚板 1 5 に通常設けられている左右それぞれ 2 個の係合穴 1 7 a、1 7 a、及び 1 7 b、1 7 b のうち、左右それぞれ 1 個の係合穴 1 7 a 及び 1 7 b だけを展示用棚板具 1 a、1 b の棚板係合部材 5 a 及び 5 b と係合させて、棚板 1 5 を傾斜状態に保持するようにしているので、左右の係合穴 1 7 a、1 7 a 間、及び 1 7 b、1 7 b 間の距離が仮に何センチであっても、傾斜した状態に保持することが可能である。したがって、展示用棚板具 1 a、1 b を取り付ける棚に本来備え付けの棚板をそのまま傾斜展示用の棚板としても使用することができるとともに、奥行き長い他の棚板であっても、展示用の棚板として使用することができるという優れた特徴がある。このため、本発明の展示用棚板具 1 a、1 b は、それらを棚の側板に取り付けることができる限り、どのような棚にも使用でき、その棚を展示用の棚として利用することを可能にするものである。

20

【0022】

図 9 は、本発明の展示用棚板具 1 a、1 b を少なくとも一対使用してなる展示用棚の一例を概略的に示す正面図であり、図 9 に示すとおり、本発明の展示用棚によれば、左右の側板 9 a、9 b 間に傾斜した状態で係止、保持されている棚板 1 5 上に、例えば書籍、雑誌などの展示対象物 2 0、2 0、2 0 を傾斜状態で展示することが可能である。

30

【産業上の利用可能性】

【0023】

以上説明したように、本発明の展示用棚板具によれば、通常の棚を簡単に展示用の棚に変更することが可能であり、展示対象物の数の増減にも機動的に対応することが可能である。本発明の展示用棚板具、及びそれを用いる展示用棚は、展示対象物を随時傾斜状態で展示することを可能にするものであり、図書館や書店をはじめ、CD ショップ、DVD ショップ、その他のおよそ棚を用いて種々の対象物を展示する必要のある場所に適用して、優れた効果を発揮し、関連する業界に与える影響には多大のものがある。

40

【図面の簡単な説明】

【0024】

【図 1】本発明の展示用棚板具の一例を示す斜視図である。

【図 2】本発明の展示用棚板具の展開図である。

【図 3】本発明の展示用棚板具を側板に取り付けた状態を示す図である。

【図 4】図 3 の A - A ' 断面図である。

【図 5】係止具の一例を示す斜視図である。

【図 6】本発明の展示用棚板具の他の例における側板との係合状態を示す図である。

【図 7】本発明の展示用棚板具上に棚板を載置する様子を示す正面図である。

【図 8】本発明の展示用棚板具上に棚板を載置する様子を示す側面図である。

50

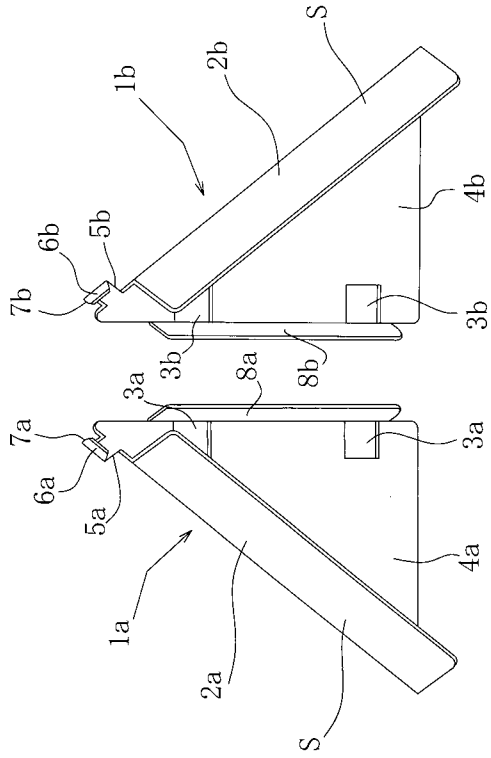
【図9】本発明の展示用棚板具を用いる展示用棚の一例を示す正面図である。

【符号の説明】

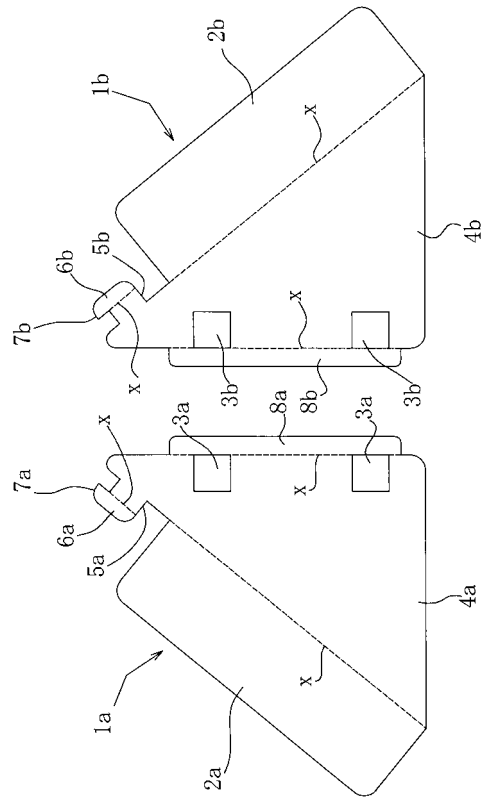
【0025】

1 a、1 b	展示用棚板具	
2 a、2 b	棚板受け部	
3 a、3 b	係止穴	
4 a、4 b	本体	
5 a、5 b	棚板係合部材	
6 a、6 b	係合片	
7 a、7 b	突起	10
8 a、8 b	折り返し部	
9 a、9 b	側板	
10 a、10 b	係止柱	
11	係止穴	
12、14	係止具	
13、19	空洞部	
15	棚板	
16 a、16 b	金具	
17 a、17 b	係合穴	
18	背板	20
20	展示対象物	
S	棚板当接面	
x	折り曲げ線	

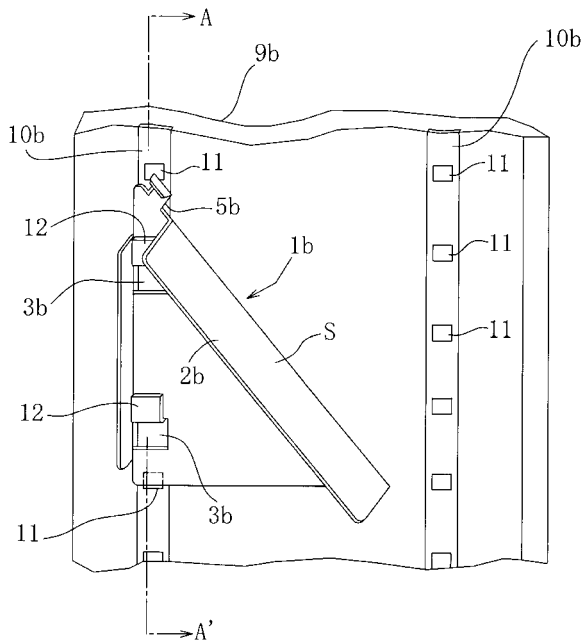
【 図 1 】



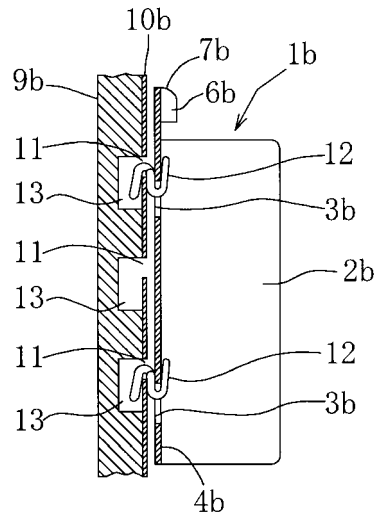
【 図 2 】



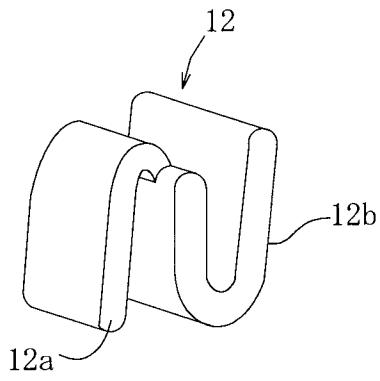
【 図 3 】



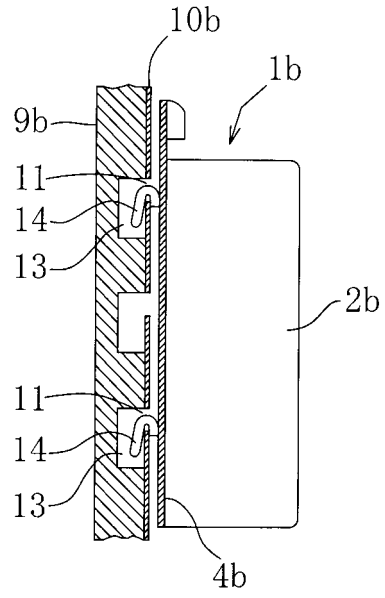
【 図 4 】



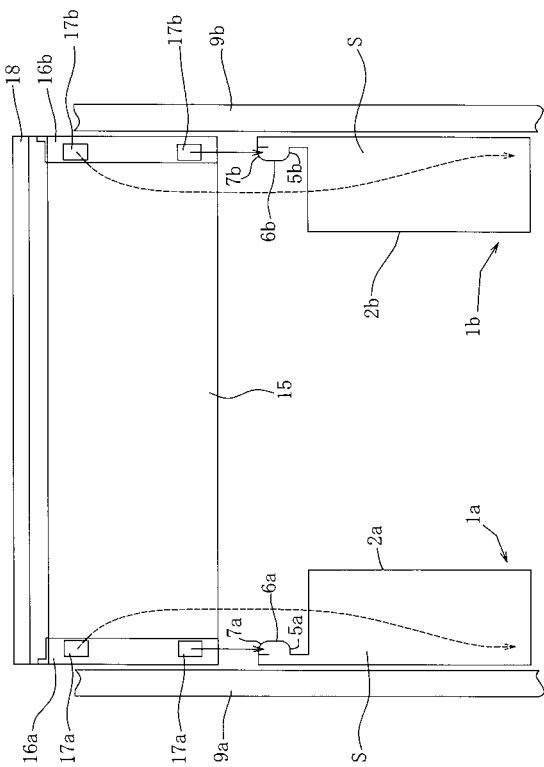
【 図 5 】



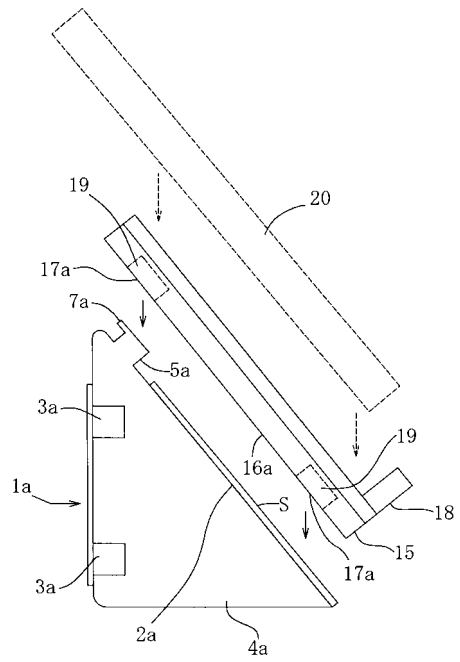
【 図 6 】



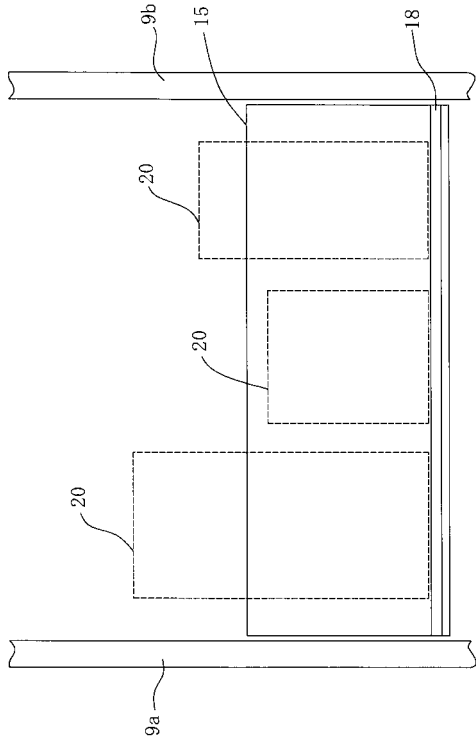
【 図 7 】



【 図 8 】



【 図 9 】



フロントページの続き

(51) Int.Cl.

F I

テーマコード(参考)

A 4 7 B 96/06

C